

## 第7 2 回光海中学校卒業式に寄せて ～1 8 名の人生に幸あれと願う～ 届け!! 在校生の歌声に込めた思い



とても元気な3年生でした。笑顔をたくさん届けてくれました。そして、たくさんの方に関わってもらって、人として成長を見せてくれました。子どもたちの心の根っこには、ふるさとへの愛が育まれたと確信しています。なぜなら、たくさんの保護者・地域の方とのつながりを通して、ふるさとの方々への感謝が聞かれるからです。

ふるさとはいつか帰りたいと思うところ  
ふるさとは自分らしさを育んでくれたところ  
光海の山・風・空は自分を包んでくれるところ

### ふるさとを語る人であれ

自分の生きてきた時間に誇りを持って、これから始まる自分の時間をたしかに豊かに生きること。それが、あなたたちが果たすべきこと。

地域のみなさま、これまで子どもたちに本物の力を見せ、教えてくださったことに感謝申し上げます。大人になること、夢を実現させること、自分にできることなどを子どもたちは真剣に考え、自分なりの答えを見つけてきました。わたしたち大人が果たすべきことを、みなさんが学校と共にご支援くださったことは、この上もない喜びであり、最大の感謝です。

## 卒業式・ウラ話 ～こんな温かいできごとが……～

新型コロナウイルス感染症対策のために、在校生は代表の生徒会役員7名だけが参加しました。そのために、臨時休業にはいる前日、在校生の思いを届ける式歌を録音して、卒業生退場の曲にしました。1番を聞いてからの退場でした。寂しい卒業式にしたくない。感動の卒業式にしたい。そんな思いを込めて、最後に職員と生徒会役員7名で「旅立ちの日に」を歌いました。その日、見送りのために登校した1・2年生は、温かく卒業生を送り出し、体育館・会場撤去をすばやくやり終えて、下校してくれました。

卒業生からの別れのことば（答辞）を紹介します。

いつも見慣れた風景が、いつも着慣れた制服が、いつも聞き慣れた友の声が、今朝はなんだか新鮮に、そして寂しく感じるのはなぜでしょう。頭では理解していたはずの今日の別れが、心の中ではまだ納得できずにいるようです。私たちが入学して四度目の春が巡ってきました。頬をなでる暖かな春風は、新しい世界へと私たちを導いてくれます。

三年前の入学式。小学校とはまるで違う中学校独特の雰囲気、先輩方がとても大きく感じられました。そして、その日からあまりにも幼すぎてまとまりがなかった私たちの中学生としての挑戦が始まりました。

（中略）

私たちが充実した学校生活を送り、今日このように卒業することができるのは、先生方、地域の方々をはじめ、たくさんの方の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

そして、いつも側で話を聞いてくれたお父さん、お母さん。これまでたくさん迷惑をかけてきたのに、素直になれず、感謝の言葉を伝えきれませんでした。でも、この場を借りて言わせてください。今まで育ててくれてありがとうございます。まだまだ未熟な私たちですが、お父さん、お母さんのおかげで、こんなに成長することができました。どうか、これからも私たちを見守ってください。自分の選んだ道を、これからは自分の力で一生懸命歩んでいきます。

在校生の皆さん、これからは皆さんが光海中学校を背負っていく番です。私たちはカッコいい先輩にはなれなかったかもしれないけど、何事にも一生懸命に取り組んできました。これからは、皆さんが光海中学校の主人公となり、ともに助け合い、励ましあってよりよい光海中学校を作っていくことを願っています。

いよいよこの長いようで短かった三年間が終わりを迎えようとしています。いくつもの挑戦を乗り越えながら、私たちは一つ一つ成長してきました。この十八人だからこそ、得られたことがたくさんあります。同じ時を過ごした仲間と別れるのは寂しいけれど、これからはそれぞれ違う道を、自分の力で歩んでいきます。たとえ、うまくいかず落ち込んでしまうことがあっても、最後は「やりきった」と胸を張れるように、私たちは、これからも挑戦し続けます。

最後に愛する光海中学校に別れを告げ、巣立っていきたいと思います。

さようなら。そして、ありがとう。光海中学校。